

「環境に配慮した模範的な取組を行っている
事業者等を表彰しています」

港区ごみ減量優良事業者等表彰の審査項目は、次のとおりです。

- (1) 収集運搬経費がミックスペーパーを含めて単価契約 (kg 単価 × 発生量) である。
- (2) 紙ごみ減量のため、ミックスペーパーのリサイクルを行っている。
- (3) 分別表示が見やすく、分かりやすい。
- (4) 社員・テナントの分別意識が高く、手元分別の仕組みができています。
- (5) 実量測定等により排出量を把握し、適正管理に努めている。
- (6) その他独自の優れた取組

これまでの受賞者一覧

年度	規模	建築物名称	年度	規模	建築物名称
H30	5,000㎡以上	東亜合成ビル	R3	5,000㎡以上	赤坂インターシティ AIR
		共栄火災新橋本社ビル			サントリーホール
		東京都立青山特別支援学校校舎棟			帝国データバンク本社ビル
R元	5,000㎡以上	NTT ドコモ品川ビル	R4	5,000㎡以上	東京ガスビルディング
		学校法人頌栄女子学院			ソニーシティ
R2	5,000㎡以上	汐留メディアタワー	R5	5,000㎡以上	虎ノ門 33 森ビル
		明産西新橋ビル			虎ノ門ヒルズビジネスタワー
					日本酒造虎ノ門ビル / NS 虎ノ門ビル
			R6	1,000㎡以上5,000㎡未満	JAF 関東本部・東京支部 KTビル

受賞者の皆様の取組については、港区公式ホームページをご覧ください！
以下の場所を取組内容をまとめたリーフレットが掲載されています。



令和7年度

港区ごみ減量優良事業者等表彰
受賞者の紹介

受賞者

- あかさか
●赤坂Bizタワー
- あざぶだい もり
●麻布台ヒルズ森JPタワー

(五十音順)

港区
リユースキャラクター
リユー助

港区
リサイクルキャラクター
エコル

港区は、事業所が集積する都心区という地域特性から、区内から排出されるごみの大部分を「事業系ごみ」が占めるという特徴があります。

「事業系ごみ」の減量を着実に進めるためには、事業者による“ごみの発生抑制”“リサイクル（資源化）への取組”が必要不可欠となっています。

そのため「事業系ごみ」の減量とリサイクルの一層の推進を図るために、平成 21(2009)年度に「港区ごみ減量優良事業者等表彰制度」を創設し、模範的な取組により、高いリサイクル率を達成するなどの顕著な実績をあげている事業者等を表彰しています。

これまでの受賞者の模範的で優れた取組事例を、区のホームページなどで広く紹介しています。これらの取組を事業者によるごみの減量・資源の再利用の自主的な取組の促進に向けた一助としてお役立てください。

赤坂 Bizタワー

受賞者	赤坂Bizタワー
建物所在地	赤坂5-3-1
延床面積	186,865.57㎡



表彰理由

廃棄物をテナント別、ごみの種別ごとに実量で計測し正確な排出量の把握に努めているほか、テナントから排出される生ごみを他の廃棄物と分別し、食品リサイクルを実施しています。また、その他の可燃ごみについても、焼却処理された焼却灰を土木資材へマテリアルリサイクルするなど、非常に高い意識をもってごみの減量・資源化に取り組んでいることが評価されました。

分別容器の細分化やイラスト・色分けの活用



可燃ごみは赤、紙類は紺といったように、ごみを15品目に細分化し、分別ルールをイラストや色分けで視覚的にわかるよう表示



生ごみはリサイクル工場へ運搬され、メタン発酵により発電。これによりCO₂削減に寄与

生ごみリサイクルの実施

保管場所でのごみの実量計測

保管場所には計量器を設置し、テナント別、ごみの種類別に実量計測を実施。計測後は、品目ごとに看板付き台車で管理



受賞者の声

港区赤坂に位置する赤坂Bizタワーは、地上39階・地下3階の赤坂エリアを代表するランドマークタワーです。約12,000人の従業員が働いている当ビルでは、環境負荷の低減と快適な職場環境の維持を目指し、徹底したごみ分別と資源削減に取り組んでいます。

ごみは15品目に細分化し、分別ルールをイラストや色分けで視覚的にわかるよう表示。可燃ごみは赤、紙類は紺、ビン・缶・ペットボトルは緑、シュレッダ紙・段ボール・発泡スチロールは黄、廃プラ・蛍光灯・電池は青とし、専用のごみ箱も同様に色分け。さらに、各フロアにはミックスペーパー専用トレーを設置し、リサイクル意識を浸透。集積所には写真と品名を掲示し、「ごみの分別を守りましょう」というメッセージで啓発活動を行っています。また、オフィステナントの入居時には分別表を配布し協力を要請。外国人スタッフが働く飲食テナントには、廃棄物処理室で分別の実演を行うことで分別ルールの浸透を図っています。

ほかにも、廃棄物処理室では回収後のごみを最終チェックし、品目ごとに看板付き台車に乗せごみが混ざらないよう管理。また、計量はバーコードで自動化し、週1回のデータ検証で不自然な計量が無いか確認しています。

正しい分別ルールの定着と継続的な見直しを行い、清掃スタッフやテナント・店舗の協力により、適切な分別と環境負荷の低減を実現しています。ごみの分別にとどまらず、照明のLED化や空調の効率運転による電力削減、コピー用紙の両面・集約印刷推奨によるペーパーレス化を推進することで、ビル全体で環境負荷低減を意識した取り組みを進めています。今後も赤坂Bizタワーは、持続可能なオフィス環境の実現に向け改善を積み重ねてまいります。

麻布台ヒルズ 森JPタワー

受賞者	麻布台ヒルズ森JPタワー
建物所在地	麻布台1-3-1
延床面積	461,774.38㎡



表彰理由

弁当を食べ終わったあとに排出される各種のごみについて、食べ残しは生ごみ、プラスチック製弁当容器はプラスチックなど、分別イラスト付きで非常に分かりやすく啓発しています。また、リサイクルハンドブックを用いたビル全体としての統一的な運用や、実量計測によるテナントごと・ごみの種別ごとの正確な排出量の把握など、建物全体としての良好な分別に積極的に取り組んでいることが評価されました。

お弁当の分別イラストの活用



残飯は生ごみ、弁当容器はプラスチックといったように、イラスト付きで分別方法をわかりやすく周知

その他紙類、燃やすぐみといったごみの分類ごとの具体的な対象品目や、処理方法(リサイクル・焼却)、運用ルール等について詳細に記載



「廃棄物処理の手引き」の共有

店舗・ごみ種ごとの実量計測及び多言語対応



店舗から出るごみは従業員がごみの種別ごとに実量計測を実施。外国人も多く、多言語に対応

受賞者の声

「麻布台ヒルズ」は、2023年11月「Modern Urban Village～緑に包まれ、人と人をつなぐ「広場」のような街～」をコンセプトに、「Green & Wellness」人々が自然と調和しながら、心身ともに健康で豊かに生きることを目指す街としてオープンしました。約8.1haの広大な計画区域には、約24,000㎡の圧倒的な緑が広がり、延床面積約861,700㎡の空間に、オフィス、住宅、商業施設、文化施設、教育機関や医療機関など、多様な都市機能が集積します。

「麻布台ヒルズ森JPタワー」の高さは約330m、就業者数約20,000人、居住者数約3,500人、年間来街者数約3,000万人という巨大空間において、資源循環の最適化は極めて重要な課題です。

こうした背景から、麻布台ヒルズでは「テナント別従量課金制度」を導入し、排出量に応じた適正なコスト負担をお願いすることで、各テナントの皆様の意識向上を図っています。

具体的な取り組みとして、当ビルではテナントの皆様に対し、詳細な分別ルールや資源化のプロセスを記した「廃棄物処理の手引き」を配布しています。

さらに、麻布台ヒルズ森JPタワーに入居する弊社(森ビル株式会社)においても、この資源循環への取り組みを自ら率先して実践しています。オフィス内では、日常的に発生するお弁当の容器や残飯、割り箸の仕分け、ペットボトルのラベル・キャップの分離などを、イラストを用いた視覚的に分かりやすいサインを掲示。迷わず正しい分別ができる環境を整え、社員一人ひとりが高い意識を持ってこれを徹底しています。

あわせて、各テナントが日々の廃棄物排出量を可視化・確認できる独自のシステムを導入いたしました。これによりテナントの皆様自らが排出状況を客観的に把握し、自発的かつ継続的な減量アクションに取り組める環境を構築しています。

森ビルはこれからもテナントの皆様と密に協働しながら、都市の営みが環境負荷軽減に直結する持続可能な街づくりを推進してまいります。